

都内中小企業の設備投資、資金繰り等の状況

四半期調査：平成24年第Ⅳ四半期（10月～12月）

設備投資：3期連続で増加

採算状況：悪化した前期から戻す動き

資金繰り：全業種・全規模で改善

雇用人員：3期ぶりに「不足」感が「過剰」感を上回る

《 概要 》

□設備投資

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成24年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は17.7%と、3期連続で増加した。

来期の設備投資の「実施予定」割合は17.4%で、当期実績に比べて減少が見込まれている。

□採算状況

当期の採算状況を採算DI（「黒字」-「赤字」）で見ると、▲14.7（前期▲21.6）と改善し、比較的大きく悪化した前期から戻す動きとなった。

□資金繰り

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」-「苦しい」）で見ると、▲23.8（前期▲30.1）と、横ばい傾向から、大きく改善に転じた。

□雇用人員

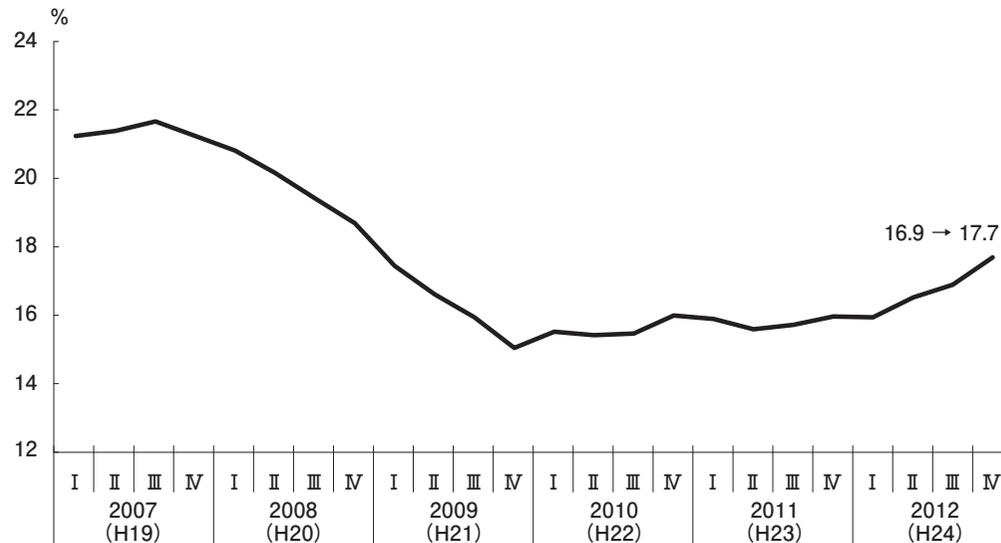
当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」-「過剰」）で見ると、2.1（前期▲1.9）と、3期ぶりに「不足」感が「過剰」感を上回った。

■設備投資■

設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、当期（平成24年10～12月）に設備投資を「実施した」割合は17.7%と、前期（平成24年7～9月）の16.9%から増加した。3期連続の増加で、平成24年は1年を通して好調な回復を見せた。

一方、来期（平成25年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合は17.4%で、当期実績に比べて減少が見込まれている。

図表1 設備投資の実施割合（全体） -後方4四半期移動平均-

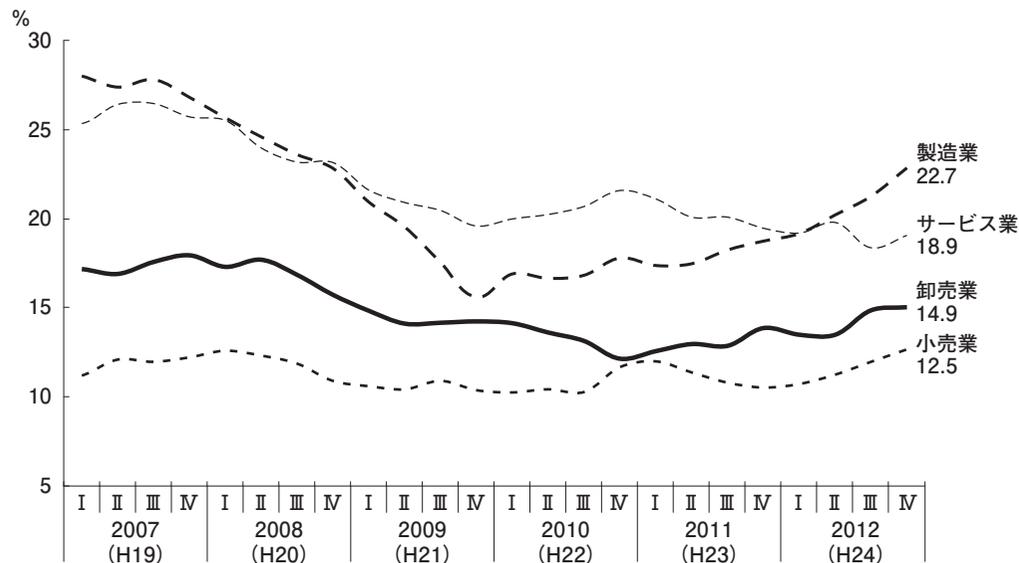


<注>来期（平成25年1～3月）の設備投資の実施予定については図表には記載していない。

業種別に、設備投資の動向を後方4四半期移動平均で見ると、全ての業種で実施割合が増加した。特に製造業22.7%（前期21.1%）は7期連続、前期比1.6ポイントの増加となり、回復傾向が著しい。小売業12.5%（前期11.8%）も4期連続で、卸売業14.9%（前期14.7%）も2期連続で増加した。減少傾向にあったサービス業18.9%（前期18.2%）は2期ぶりに増加に転じ、下げ止まった。

なお、来期（平成25年1～3月）の設備投資の「実施予定」割合は、サービス業のみ24.5%と当期実績よりも増加する見通しである。他の業種は当期実績に比べて減少を見込んでいる。

図表2 設備投資の実施割合（業種別）－後方4四半期移動平均－

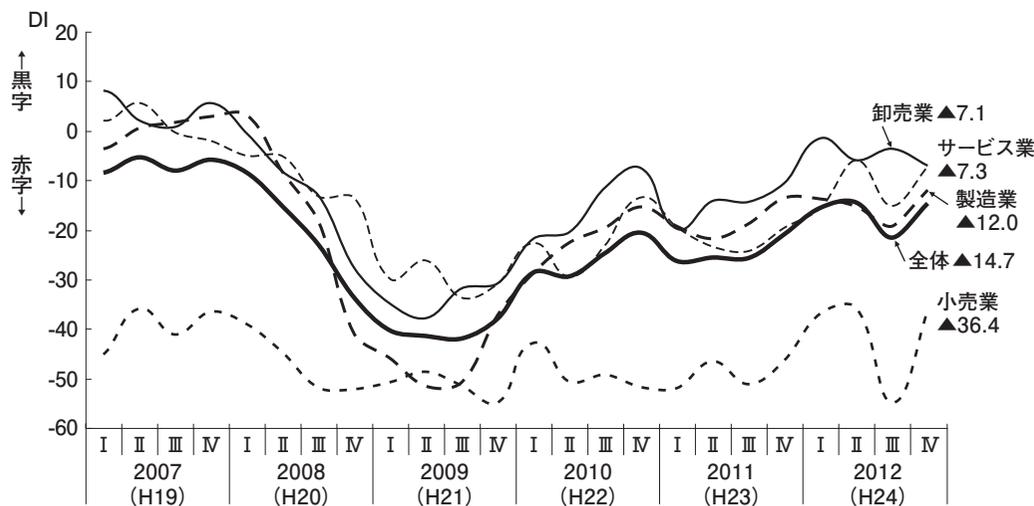


<注>来期（平成25年1～3月）の設備投資の実施予定については図表には記載していない。

■採算状況■

当期の採算状況を採算DI（「黒字」－「赤字」）でみると、▲14.7（前期▲21.6）と改善し、比較的大きく悪化した前期から戻す動きとなった。

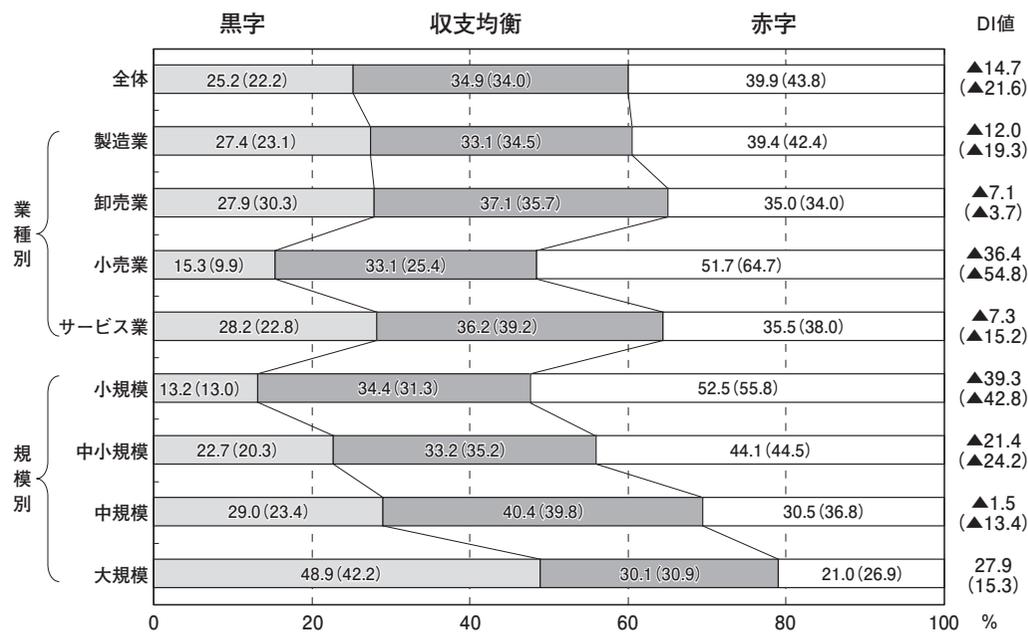
図表3 採算DIの推移



業種別にみると、製造業▲12.0（前期▲19.3）は3期連続の悪化から4期ぶりに改善に転じた。小売業▲36.4（前期▲54.8）とサービス業▲7.3（前期▲15.2）も改善し、2期前の水準に戻した。卸売業▲7.1（前期▲3.7）のみ、小幅ながら悪化し、他の業種と傾向が異なった。

規模別にみると、全ての規模で黒字企業が増加、赤字企業が減少し、採算状況が改善した。特に、中規模▲1.5（前期▲13.4）と大規模27.9（前期15.3）の改善幅が大きく、規模による採算DIの差は拡大した。

図表4 採算状況（業種別・規模別）



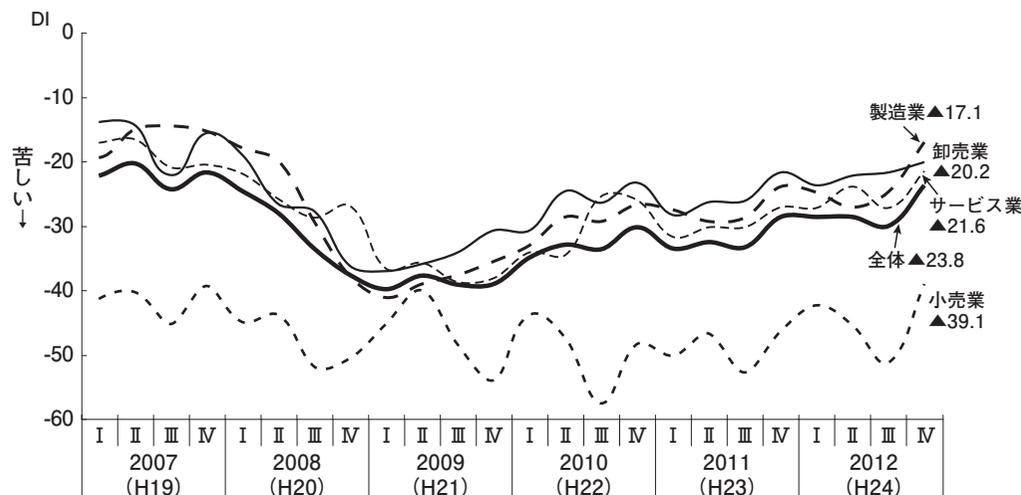
<注>カッコ内は前期（平成24年7～9月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■資金繰り■

当期の資金繰り状況を資金繰りDI（「楽」－「苦しい」）でみると、▲23.8（前期▲30.1）と、横ばい傾向から、大きく改善に転じた。

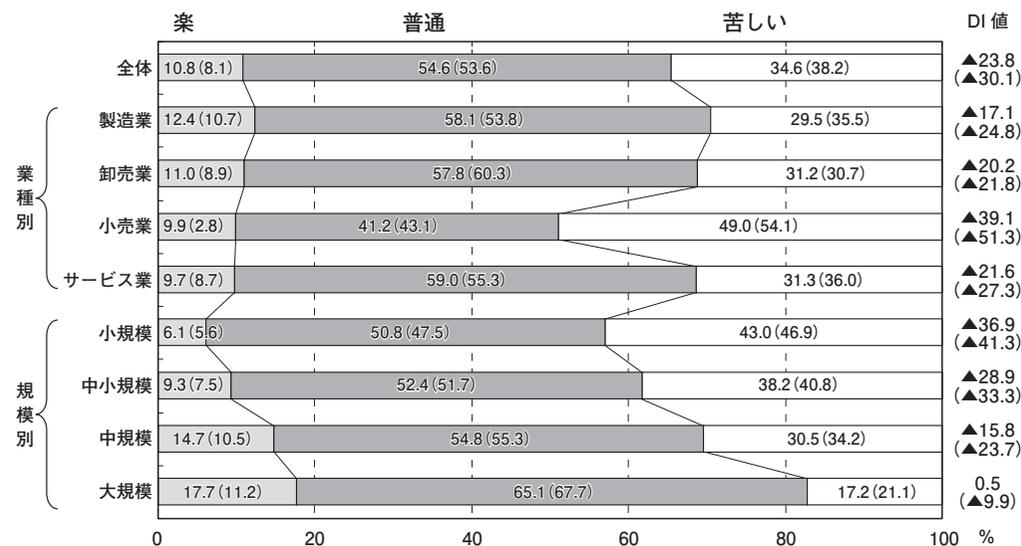
業種別にみると、全ての業種で資金繰りDIが改善した。製造業▲17.1（前期▲24.8）は2期連続、卸売業▲20.2（前期▲21.8）は3期連続の改善となった。また、小売業▲39.1（前期▲51.3）は厳しい水準ながら、12.2ポイントと大きく改善した。

図表5 資金繰りDIの推移



規模別にみても、全ての規模で資金繰りDIが改善した。特に中規模▲15.8（前期▲23.7）と大規模0.5（前期▲9.9）の改善幅が大きく、大規模は平成20年第I四半期以来、約5年ぶりにDI値がプラスとなった。

図表6 資金繰り状況（業種別・規模別）

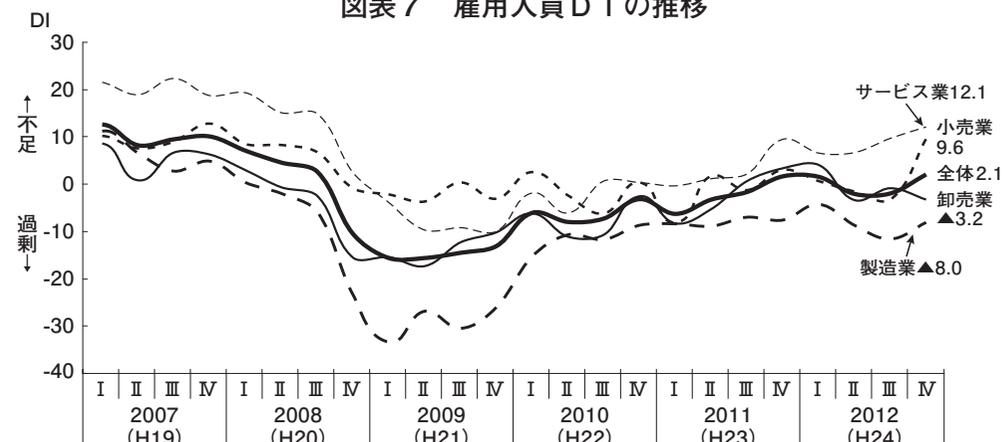


<注>カッコ内は前期（平成24年7～9月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。

■雇用人員■

当期の雇用状況を雇用人員DI（「不足」－「過剰」）で見ると、2.1（前期▲1.9）と、3期ぶりに「不足」感が「過剰」感を上回った。

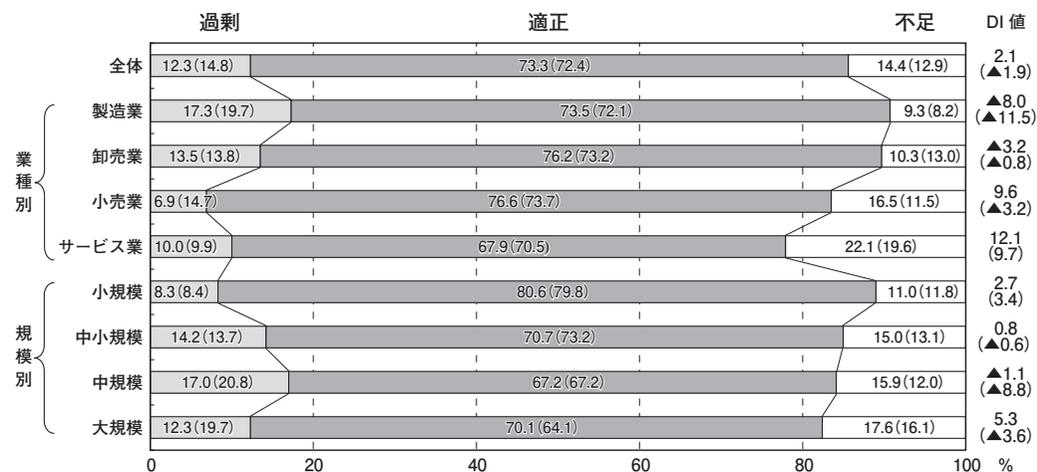
図表7 雇用人員DIの推移



業種別にみると、小売業9.6（前期▲3.2）とサービス業12.1（前期9.7）で、「不足」感が「過剰」感を上回った。特に小売業は、12.8ポイントと大幅にDI値が上昇し「不足」感が高まった。卸売業▲3.2（前期▲0.8）は「過剰」感がやや強まった。

規模別にみると、中規模と大規模でDI値が大きく上昇した。特に大規模はDI値がプラスに転じ、「不足」感が「過剰」感を上回った。

図表8 雇用人員の状況（業種別・規模別）



<注>カッコ内は前期（平成24年7～9月）の数値。四捨五入のため合計が100にならない場合がある。